

ベーシックウイング

中学 国語

古文 第2回 古文の読解 基本2 イン트로

次の文章を読みましよう。

この世にいかでか^{*}かかることありけむと、めでたく覚ゆることは、文にこそ^{*}侍るなれ。「枕草子」に返す返す申して侍るめれば、こと新しく申すにおよばねど、なほいとめでたきものなり。はるかなる世界にかき離れて、幾年^あ逢ひ見ぬ人なれど、^①文といふものだに見つれば、ただ今さし向ひたる心地して、^{*}なかなか、うち向ひては、思ふほども続けやらぬ心の色もあらはし、言^{*}はまほしきことをもこまごまと書きつくしたるを見る心地は、めづらしくうれしく、あひ向ひたるに劣^②りてやはある。

つれづれなる折、昔の人の文見出でたるは、ただ、その折の心地して、いみじくうれしく ^③ 覚ゆれ。まして亡^なき人などの書きたるものなど見るは、^④いみじくあはれに、年月の多く積りたるも、ただ今、筆うち濡^ぬらして書きたるやうなるこそ、返す返すめでたけれ。

(『無^む名^な草^{そう}子^し』による。)

- * かかることありけむ || こんなことがあったのだろう。
- * 侍るなれ || ございます。 * なかなか || かって。
- * 言はまほしきこと || 言いたいこと。